の周辺から朝日連峰（または飯豊連峰）にかけて，“面で接して”いると考えるのが妥当である。現在見られるこのような興味深い分布パターンが，どのように形成されまた維持されているのかは，これら2種にカイタカラコウや大陸に分布するダッタンタカラコウ *L. sibirica* Cass. などを含めたオタカラコウ類全体の分化の過程を明らかにするという脈絡の中で，解明すべき問題であると考えている。

なお，本稿で採用したオタカラコウの新産地（Fig. 1, A, B, C）については，証拠標本（A：T. Kato, No. 6801.　B：T. Kato, No. 6802.　C：T. Hashimoto, T. Iwashina & H. Iwata, Oct. 18, 1985）を国立科学博物館標本庫（TNS）に収蔵してある。

最後に，腊葉標本の閲覧に便宜をはかって頂いた各標本庫，植物の採取を許可して頂いた関係官公署，飯豊連峰における植物の生育状況についてくわしく御教示頂いた小荒井実氏に，心からお礼申し上げたい。

（国立科学博物館 筑波実験植物園）

□初島住彦：**改訂鹿児島県植物目録** 290 pp. 1986. 鹿児島植物同好会（鹿児島大学農学部造林学教室），鹿児島. ¥3500（送料とも）. 1978年に刊行されたものの改訂版で，全体にわたって訂正，追加がなされている。クロタキカズラ科，フサザクラ科が新たに加えられている。凡例によると3019種を収録しており，前巻の凡例にある数より減少しているが，これはタクソンの数えかたの違いによるものだろう。ざっと数えたところでは，前巻より 270 種ほど増加している。約50の新学名，新和名が提示されているが，前巻から引き続いたものと，本巻で初出のものとの区別がつかない。新名の初出表はつけてほしかった。本巻初出の学名は新組合せをのぞいて20ほどあるが，裸名である。まだ活発な活動をしておられる著者のことだから，遠からず正式発表を期待する。　（金井弘夫）

□秋山　優・有賀祐勝・坂本　充・横浜康継（編）：**藻類の生態** i-viii+627pp. 1986. 内田老鶴圃，東京. ¥12,800. 15名の執筆による17章から成る藻類の生態の総説書である。それぞれの章は主として執筆者の研究分野を中心とするレヴュー形式ですすみ，藻類の生理機能と環境，海・湖沼・河川・汽水・土壌・海氷中など生育を異にする藻類の生態・生産動態，分布と環境，藻類と他の生物の相互作用，藻類の生活史，藻類の群集の構造と多様性などを扱う。内容はかなり専門的で，最近の研究成果はよく盛られ，引用文献も豊富である。藻類生態学の最近の動向を知るのに便利であり，類書が日本に無いだけに，われわれにとっては有難い本の出現である。難を言えば，扱った藻群や紹介した研究方法に多少片寄りのあることである。続刊を期待したい。　（千原光雄）